

- 令和3年7月2日、庄内川流域のあらゆる関係者が一堂に会し、第6回庄内川流域治水協議会を開催。
- 上・中・下流の一体感をより強めるため、協議会名称を「**土岐川・庄内川流域治水協議会**」に変更することを確認。
- 流域治水プロジェクトにもとづく防災まちづくりの取組状況を共有。
- グリーンインフラの必要性や取組状況が共有され、流域治水プロジェクトに**グリーンインフラの観点**を追加することを確認。
- また、**地域住民の流域治水への理解や参画**を促すため、一般公募によるロゴマークの作成および今秋シンポジウムの開催を決定。

日時：令和3年7月2日（金）10:00～11:00
場所：WEB開催（公開：庄内川河川事務所）
構成員

- ・18市5町
（多治見市長、瀬戸市長、犬山市長、稲沢市長、清須市長、あま市長、他流域市町関係者）
- ・岐阜県 県土整備部・都市建築部・林政部、愛知県 建設局・農林基盤局
- ・東海農政局、中部森林管理局、多治見砂防国道事務所、庄内川河川事務所

オブザーバー（8機関）

- 中部地方整備局 建設部・河川部、気象庁名古屋地方気象台、地方共同法人 日本下水道事業団 東海総合事務所、中部電力(株) 事業創造本部、名古屋高速道路公社 総務部、岐阜県農政部、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター中部整備局

出席者：40機関

構成員による取組状況報告

■防災まちづくりに関する取組報告



いとう やすひで
伊藤 保徳 瀬戸市長

水災害リスクを踏まえた
土地区画整理事業の検討について



ながた すみお
永田 純夫 清須市長

水まちモデル都市として、
水災害リスクを踏まえた
防災まちづくりの検討について



名古屋市長代理
(住宅都市局 渡辺都市計画部長)

水災害リスクを踏まえた
立地適正化計画の見直しについて

■グリーンインフラに関する取組報告



やながわ たきゆき
古川 雅典 多治見市長

多治見市は日常的にまちの真ん中を流れる土岐川に敬意を表しようとかまちづくりの整備を進めている。国交省の提案するグリーンインフラについては十数年前から取り組んでいる。



やまた たかひろ
山田 拓郎 犬山市長

水と親しむことはまちづくりの重要な観点。河川だけでなくため池空間も含めて、グリーンインフラの取組はしっかり進めていきたい。

ロゴマークの作成・シンポジウム開催の決定

■名古屋市からの提案

○流域治水の取組を推進していくためには、地域住民の方々の理解を得ることが非常に重要だと考えている。

○地域住民の流域治水への理解や参画を促すためにも、一般公募によるロゴマークの作成および名古屋市を会場にシンポジウム開催について提案する。

■参加自治体からの賛同の声



かたやま しんじろう
加藤 錠司郎 稲沢市長

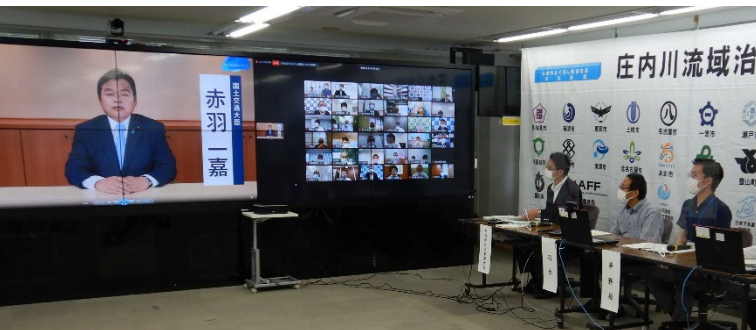
市民の水害に対する意識の向上が重要であると考えている。



むらかみ ひろゆき
村上 浩司 あま市長

我々の協議会と住民双方の協力が必要であると考えている。

協議会（公開会場）の様子



※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、WEB方式で開催。